

ハッピー通信



2025年4月15日発行
25-16号

現場から（最近のニュースから）

生成AIではできること



AIというと、少し前まではなじみがなかったのに、急にあちこちで使われるようになり、さまざまな情報を提供してくれるだけではなく、生成AIは「創造する力」持っているので、絵や音楽や文章を作り出しています。とても助けになって、あるときには相談相手にもなってくれるように感じるAIですが、それについて、警告を発している2人の対談がありました。

田口善弘氏（中央大学理工学部物理学科教授）と川原繁人氏（言語学者、慶應義塾大学言語文化研究所教授）が、生成AIの可能性と危険性を語っていました。2人が言われるのに、人間言語と生成AIは、絶対に同じではなく、人間がしゃべっているように「見える」から、生成AIはもう人間の言語能力を獲得しているように見えるけれど、違うということです。AIの危険性を語る中で、特に子どもたちに簡単におしゃべりアプリを与えることは、とても危険だと言われます。いま、SNSなどを見ていると、見る人が自分の都合のよいSNSしか見ないので、発信する人も、人がよく見てくれることだけを出しているというのが事実です。おしゃべりアプリは、それが個人的なことになるので、自分に気持ちいいことしか言わないキャラクターと話すだけになり、多分、普通の人との話ができなくなるだろうということです。人間には必ず意見の対立があり、自分と違う意見の人がいて、そうした人と話し合うことで成長するのに、自分にいいことしか言わない相手との会話に慣れてしまうと、対立や話し合いがストレスになるだろうということです。AIはこちらの言ったことを「理解」して話をしてくれているのではなく、こちらの言ったことに対して、確率的に高い「反応」を返しているだけで、私たちの気持ちなんてわかつてもいないし、感情なんていうものもないのだと警告されています。知性がないのに、あるかのように振舞っているので、その事実を知らずにいる子どもに与えると、人間とは接することができない人間に育つだろうと言われます。これから技術が発展すると、いろいろ良くないと指摘される点を改善したものが開発されてくるだろうけれど、それでも、発展段階の中で、必ず何らかの感覚が「足りない」フェーズがあるはずなので、そこで育った子どもたちが犠牲になるのではないかということです。（4月11日現代ビジネス＜「人間と話せない」子どもが生まれる日…！「子育て現役世代」言語学者の「リアルすぎる」危機感＞より）

記事の中で、人間にはAIとは違うことがあって、どんなにAIが発展しても人間と同じにはなれないと言つておられました。その「違うこと」について、記事ではあまり明らかにされていなかったのですが、実は人間は目に見えることや、感情や心の精神的な部分だけではない、機械には絶対に存在しない部分があります。そのことが分からないと、どんなに技術が発展して、AIがとてもいい相棒になったとしても、どうしようもない問題が生じてしまうしかなのです。「人間」とは何なのかを知らないまま、心の問題よりもっと深い根底に「人間」にある、人間だけにあることを知らないなら、どんなに技術が発展しても、かえって人間は苦しくなるだけです。人間とは何か、また、人間の根底にあることについて、いっしょに見てみませんか。



救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあい、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になり、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快樂に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをして、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれています。隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出しができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に出会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち碎いて勝利なさいました(I ヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。



もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってくださったことを感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」